

(12) 西土佐小学校

学 校 長 島田 敏和
校内研究代表 谷口 由紀

1. 研究主題

「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童の育成」
～生活や社会とのかかわりを意識した算数科の授業を通して～

2. 研究主題設定の理由

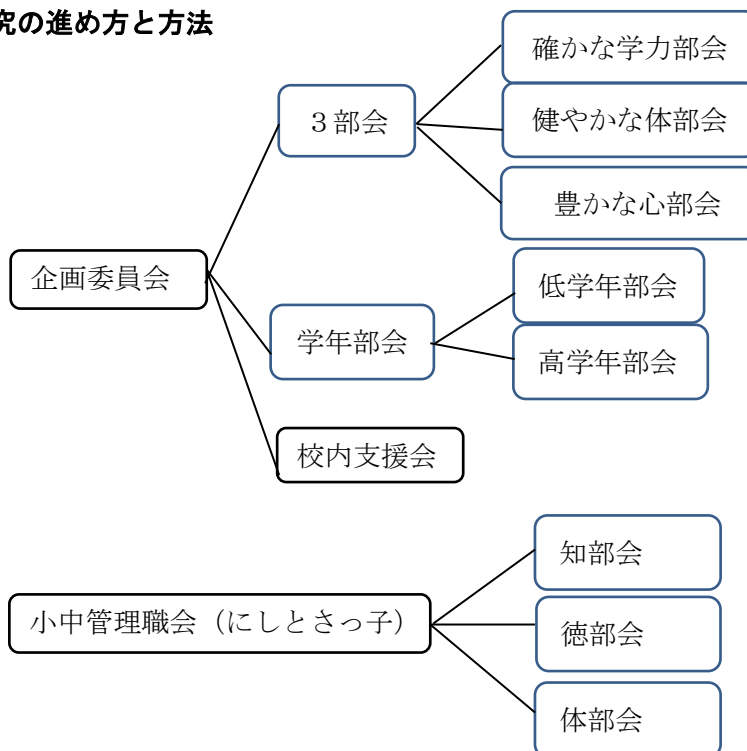
児童は素直で、友達とも穏やかに接し、互いに声をかけ合って活動する姿が見られるが、自己肯定感の低さや自分の思いを表現する力に弱さが見られる。

学力面について、児童は教師側から提示された課題について真面目に取り組むことができる。

昨年度、児童の学力、主体性の向上を図ることを目指して授業改善に取り組んできた。主に、授業で目指す児童の姿（資質・能力）を意識しながら、児童の興味・関心に結びつくような日常や社会事象とのかかわりのある算数科の授業を創造してきた。全国学力・学習状況調査、高知県学力状況調査などの結果から、どちらも数値が上がり、学力の向上が見られた。また、にしとさっ子アンケート「算数の授業が分かる」「算数の授業は生活に生かせる」の項目の数値が上がったことにより、児童の学習意欲が高まったと考えられるが、「自分の思いや考えを発表できる」の項目は課題が残り、主体的に学び、自分の思いを表現しながら対話的に学ぶことに関しては充分とは言えない。

以上から、今年度も算数科を中心とし、児童が目的意識を持ち、数学的な「見方・考え方」を働かせながら、根拠をもとに自分の思いや考えを数学的に表現できる授業づくりに取り組み、児童の学力、主体性の向上を図ることを目指し、本研究主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法



・全体研究日…第2、3、4水曜日（14:40～） 第1水曜日：職員会

・学年部会…随時

【低学年部：新玉、津野、田中、吉本、植木（植田）】

【高学年部：谷口、岩村、依光、島田、柴、辻田】

- ・校内支援会…毎月第4木曜日（16:10～16:40）
- ・教科部会…随時
- ・チーム会…月1回程度
- ・3部会…随時

知	体	徳
○授業力向上 ○基礎学力の定着 ○家庭学習の推進 ○ICTの効果的活用	○体力づくり ○生活習慣の確立 ○食育の推進	○道徳、人権教育、特別活動の推進 ○いじめ・不登校の未然防止 ○生活指導の充実 ○キャリア教育の推進 ○読書活動の推進

（４）今年度の成果と課題

①成果

授業改善

- 算数科の研究を軸に、年間を通して計画的に授業改善を図ることで、どの学年においても授業の質の向上が見られ、各種学力調査やアンケート結果にも繋がってきている。
- 授業で目指す児童の姿（資質・能力）を意識し、「見方・考え方」を踏まえ授業改善に向け、全校で取り組みを行うことができた。
 - ・「算数の授業がよくわかる」96.7%（目標：90%以上）
 - ・「算数の授業は生活に生かせる」98.3%（目標：90%以上）
 - ・「自分の思いや考えを発表できる」83.3%（目標：80%以上）

保・小・中・高・地域との連携

- 4月中旬に、3年以上の総合的な学習の時間の年間計画について、探究的な学習を意識した計画の練り直しを行い、年間を通して実践を行うことができた。
- 合同研修会の全体会の中で、「15歳の中学校卒業時に子どもたちにつけておきたい非認知能力」について共通理解を図ることができた。また、小学校独自に、小学校高学年の目指すべき力の付いた児童の姿や、具体的取り組みについて校内で確認していくことができた。
- 保育者・教職員間の連携強化
 - ・中学校教員による小学校での音楽・外国語の学習指導（中1ギャップの解消・軽減）
 - ・日常的に管理職や学校事務・研究主任等が連携できており、様々な会を通して気軽に相談しあえるような関係性ができつつある。

②課題及び改善策

授業改善

- 市販の単元テストにおいては、算数科の正答率が他教科と比べて低く、次年度も算数科を中心に研究を進めながら、更なる授業改善を図っていききたい。また、二極化がみられる学級や個別の支援が必要な児童がいる学級もあり、ICTの効果的な活用方法も含め、学校全体でアプローチする方法を考えていく必要がある。
- 毎年「自分の思いや考えを発表できる」は年々数値が上がってきているが、まだまだ課題である。根拠をもとに「自分の思いや考えを発表できる」授業づくりを更に進めていく。

保・小・中・高・地域との連携

- 15歳の出口を見据えた「保・小・中連携カリキュラム」の作成・実践。
- 取り組みの検証軸となるデータ収集。
- 遊び・生活科・総合的な学習の時間における、学びの連続性に着目した焦点化した取組実践と検証・改善。
- 総合的な学習の時間、他の教科での地域人材の更なる発掘。
- 地域学校協働本部事業の充実。